

都立立川短大 桑田 百代
 埼玉大 稲葉 ナミ

1. 前3報につづき、家庭婦人の生活時間について知りたく、この研究を行なった。

2. 研究方法は前3報にてすでに発表したものと大差はないが、家庭婦人の生活時間の特長を明瞭にするために、比較対象を40歳代の男子の生活時間に求めた。すなわち、第2報の年齢別の分析結果によって明らかにしたごとく、40歳代の男子は、男子の各年齢階層中、職業労働参加割合の最も高い年齢層である。

3. 以上の結果、次のごとき諸点について報告する。

睡眠 両者に大差は見られなかったが、起床時間は家庭婦人の方がやや早い。

全労働 男子の場合には、全労働すなわち職業労働の感が強いのに比し、家庭婦人の場合には全労働に影響を与えるものとして、家事労働と職業労働の二要素が入ってくる。すなわち、早朝および夜分に現われる全労働参加率の増大は家事労働のためであり、昼間の午前・午後の参加率をかなり大きなものにさせている要素としては、職業労働が考えられる。

余暇 家庭婦人と男子とで一致点の現われるのは午後10時以後で、平日・休日ともに余暇参加の状態は全く異なっている。